

田野浦・出口の祭り「さあらい」

10月下旬から11月にかけて、町内各地区で秋祭りが行われました。

田野浦地区では10月28日に行われ、お神輿で地区を練り歩いたあと、さあらい(災払い・災被い)やはなとりが奉納されました。さあらいは、宮本武蔵と佐々木小次郎の巖流島の決闘を模した踊りで、今年も小学生6年生の男児が踊りました。この日に備えて約2カ月練習してきた2人の演技は、息がぴったり合い素晴らしいものでした。



田野浦地区の秋祭りで長年行われているさあらい。

また、同じ日に出口地区で開催された秋祭りでは、十数年ぶりにさあらいが復活。多くの観客が見守る中、武蔵・小次郎に扮した青年2人が力いっぱい太刀を打ち合わせると、会場から拍手が沸き起こりました(表紙写真参照)。

黒砂糖シーズン到来!

黒潮町の年末の風物詩の一つである黒砂糖の精糖作業が、11月10日、入野の加工施設で始まりました。江戸時代に始まった大方地域の黒砂糖作りは、昭和30年頃から白砂糖に押されて一時完全に姿を消しましたが、昭和63年に大方精糖生産組合が生産を再開。現在は、町内で約40人がサトウキビを栽培しています。

畑で刈り取ったサトウキビを加工施設の搾汁機で絞り、搾汁液の不純物を取り除きながら3つの釜で順番に炊き上げ、煮詰めていきます。黒潮町産の黒砂糖は丁寧な灰汁を取るため、優しい舌触りとまろやかな味の特徴。黒砂糖作りは12月中旬まで行われ、町内の道の駅や直売所などで販売されます。



三番窯での仕上げ作業。2~3年前に息子に任せ引退したという文野達夫さん(97歳・写真右)も、精糖作業を見守っていました。

転落救助で感謝状

10月31日、高知県漁協伊田支所において、土佐清水海上保安署長より黒潮町白浜の荒尾正芳さんに感謝状が贈られました。

荒尾さんは、10月7日、伊田沖でイセエビ漁をしていた際、誰かが叫んでいるような気がしたので周囲を見たところ、少し離れたところに同僚男性の漁船を発見。男性の姿が見えないため自船を近づけていくと、海に転落していた男性を発見しました。荒尾さんは漁業仲間に救急車の手配と救助の応援要請を行い、男性を救助。漁船は通報を受けた同僚が漁港へ曳航しました。男性は一時意識がはっきりしなかったものの、病院で手当てを受け2日後に退院しました。



荒尾さんは「いろんな偶然が重なって男性を救助できた。」と話されていますが、的確な判断・対応と漁業者の皆さんの連携により、無事に人命が救助されました。(海洋森林課)

町振興計画審議会が答申

今年8月に町長より諮問を受けた第1次黒潮町総合振興計画の平成23年度進捗状況について、10月31日、町振興計画審議会・谷祀雄会長より答申書が提出されました。

今年度は、平成23年度に実施された施策より、30件の事務事業について評価。町では、この答申を真摯に受け止め、今後の町政運営に生かしていきます。(企画振興係)

【評価結果の概要】

- ①「振興計画」に沿った内容の事務・事業が実施されているか。
- 実施されている 29件
 - 実施されていない 1件
- ②目標や課題に対して成果が見られるか。
- 成果が見られる 22件
 - 成果が見られない 4件
 - 評価しがたいもの 4件



答申書の詳しい内容は、町ホームページ(<http://www.town.kuroshio.lg.jp/sosiki/soumu/sougoukeikaku/>)をご覧ください。